

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570614313		
法人名	株式会社 うめの木園		
事業所名	グループホーム うめの木園		
所在地	秋田県男鹿市五里合箱井字町屋田4番地3		
自己評価作成日	令和5年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が自然体でゆっくり過ごせるような環境を心がけ、家庭的な雰囲気一人でひとりの思いを受け止めたケアを心がけています。今年度もコロナの為にホーム内の行事を縮小して行い、感染予防しながら楽しめるよう工夫して行っています。(お花見ドライブと昼食会・地区祭典・七夕・夏祭り等)また、山菜の皮むき・梅漬け作り・植物の手入れ・写経・折り紙・縫物・手芸等、個々に出来ることをレクに取り入れ楽しんでいます。短歌については、経験者より作品を見ていただき講評してもらうなど、本人の励みとなっています。9月中旬、外泊訓練をしながら在宅復帰した利用者様もいました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナの影響で未だに活動制限が続く中、管理者を初めとして全職員が利用者の持っている力を日々の生活に活かすことで意欲を引き出し、家族との繋がりも大切にしてより豊かな暮らし方になるよう努力しています。在宅復帰した方には折に触れて連絡をし、その生活を支えています。朝のミーティングは両ユニット合同で行って情報を伝え合い、ユニット間の連携が図られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・リビング・事務所の目のつく所へ掲示し、理念の共有を図っている。理念については、園内研修の5月に学び実践し、理念に沿ったケアができるように日々努めている。	開設当初からのホーム理念が設定され、研修等を通して意識づけを図っています。更にユニット毎につくられた理念をケアの指針としており、職員が自身の業務を振り返って実践状況を確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為に中学生の体験学習は今年度も中止となっているが、地区祭典の子供会の神輿は園庭で距離をおきながら見学し楽しむ事ができた。	通常通りとはいかないものの、少しずつ交流の機会は増えてきています。野菜の訪問販売は続いており、周辺の散歩でも以前と変わらずに近所の方と挨拶を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	今年度も認知症カフェはコロナの為に中止している。地域住民の抱え込んでいる困り事等は、行政や専門職へ繋げるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。市の指導により書類にて情報提供し、推進委員の方へ送付している。会議録を職員へ回覧して周知し改善へ活かしている。玄関前にも公表している。	書面上の会議が続いています。電話で意見を伺っているようですが、ホームの取り組みを報告するにとどまっていることが多いため、会議が運営に活かされておりません。	多くの地域の方が会議メンバーになっていることから、サービスの向上に活かすために書面で意見を求める等の工夫をし、記録に残していかなれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接、窓口へ行き相談・報告するよう努めている。また、在宅復帰した利用者様についてはホーム内に在籍中から退所後も相談・アドバイスをもらう等、連絡を密にして繋がっている。	担当部署、包括支援センターと良好な関係が保たれ、情報交換しながら連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的拘束等適正化委員会や虐待防止検討委員会を定期的に会議を開催している。園内研修も実施し、身体拘束をしないケア・不適切なケア等についても研修している。	業務中にも話し合う機会が多く、身体拘束、虐待のないケアに意識的に取り組むことのできる環境ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	9月の園内研修で実施し、職員全体で理解・活用出来るよう努めている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけでなく、解約時にも利用者・家族が心配や不安にならないように十分に協議し、理解を得られるように努めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を設けている他に苦情のポスターも掲示し、苦情の受付をして対応し、運営に活かしている。	家族との関りも大切にしていることから、意見、要望、苦情等にはその都度丁寧に対応しています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	全体会議に出来るだけ経営者にも参加してもらい、意見を聞いている。職員の現状に合った働き方が出来るように話し合いの場を設けて意見を聞き、反映させている。職員育成についても、指導担当者をつけて、きめ細やかな指導が出来るようにしている。	職員は活発に発言して代表に伝わっており、管理者は日常業務の中からも意見を拾うようにしています。業務の見直しや環境整備等、職員の意見、提案を運営に反映させています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	男鹿・南秋・潟上グループホーム連絡協議会主催の介護員部会・管理者部会・経営者部会の研修への参加や株式会社のグループ内の管理者研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談のアセスメントだけでなく、施設見学や入所当日等、コミュニケーションをとりながら受け止めるように努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談のアセスメントだけでなく、施設見学や入所当日等、コミュニケーションをとりながら受け止めるように努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で出来る限り共同で物事を行うようケアし、その中でお互い学んだり共感しながら生活している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ利用者の状況・状態報告を随時行っている。トラブルが発生したり著しく変化してきた時は、家族へお願いしたり協議している。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	利用者から申し出があった時には、電話や手紙の交流がある。機会があれば出かけるように努めている。また、知人・友人・親戚が面会の際は交流を楽しんでいる。コロナの発生状況もみながら対応している。	法事、お盆で帰宅したいという本人の希望に家族が応えてくれている他、電話や手紙でこれまで関わりのある人との関係を大切にできるよう支援しています。訪問理美容の方も馴染みの関係になっています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ他者と関わりが持てるようにアクティビティ等工夫している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に合わせた対応に努めている。退所後も家族・本人から相談を受けたり、入院先の相談員やケアマネと連絡をとったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で聞き取られた情報を担当者だけでなく、職員全体で把握できるよう申し送りを行い、カンファレンス等でも話し合いがなされている。利用者の思いをくみ取りケアに活かしている。	入浴時や居室で、或いはホールで会話しながら利用者の思いを汲み取ることができるよう努めています。担当職員が深く関わるだけでなく、他の職員も日々の関わりを大切にしています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にアセスメントだけでなく、入所後も利用者とコミュニケーションをとり、把握に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	計画作成者・担当だけでなく出来るだけ多くの職員が計画作成に参加出来るよう会議を行っている。また、家族・利用者の要望や思いを受け止めて意向をまとめ、ケアに反映させるように計画作成に努めている。	日誌等の記録内容を基にして職員間で話し合ったことを介護計画に反映させています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録だけでなく、利用者の変化等については支援経過記録や日誌等に記録して申し送りを行い、周知してケアに活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用に関心し、必要に応じて協力を要請している。(ボランティア・消防・警察・民生委員・医療機関等)		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医を確認している。協力医の選択もお願いしているが、選択しない場合でも要望に合わせた対応をしている。コロナワクチン・インフルエンザ予防接種については全員、協力医より行ってもらっている。	入居時に協力医への変更をお願いしてはいますが、利用者、家族の希望を優先して対応しています。家族が受診介助してくれる場合には状態報告書を持参していただき、職員が介助する場合も双方で情報を共有しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護センターと連携しており、訪問の際に情報や気づきを伝え、週1回相談・アドバイス・指示をもらい、適切な受診・看護が受けられるように努めている。夜間対応もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院機関と協力医の連携の中で施設での対応が可能な場合には、早期退院に努めている。病院の相談員と連携をとり、相談・情報交換している。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時や終末期についてはその都度、家族と話し合い場合によっては医師から説明を受けている。看取りについても勉強会を行っている。	看取りの実績はなく、かかりつけ医によって対応が異なると思われませんが、確認してはおりません。これまでは本人のその時の状態に応じてホームでできる支援が行われていました、	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の園内研修を受け、実践力が身につくように努めている。可能であれば消防の出前講習等で応急手当等について学び実践力を身につけている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定避難訓練及び初期消火の訓練を地域住民と共に実施している。「地震」「津波」「豪雨・台風」「土砂災害・風・水・雪害」についても勉強会を行っている。	地域の防災訓練に参加し、ホームの避難訓練も定期的に行っています。有事には運営推進会議のメンバーである地域の消防団長、近隣住民の協力が得られることになっており、食料の備蓄もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報・プライバシーについての園内研修を実施し、職員の意識向上に努めている。	利用者の誇りを損ねない言葉かけや対応をしています。特にトイレに誘う場合の声かけには周囲への配慮もしています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別にケア等を行っている。移動美容院・理容でお店に出かけたのと同じようにカット・パーマ・髪染め・顔そり等を行っている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立によっては、下ごしらえから利用者へ協力していただき、一緒に会話しながら楽しく食事している。山菜の下ごしらえ(フキ・ミズタケノコ等)も喜んで行ってくれている。コロナの影響で現在は下膳のみ行ってくれている。	お花見やイベントで、いつもと形を変えて提供する食事がより楽しいものとなっています。フキを採りに出かけたり梅を漬けたり、利用者の力が活かせる支援が行われています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同系列の栄養士より献立も見ていただき、指導を受けている。食事量の不足な利用者には代替食を提供している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけと就寝前の入れ歯洗浄を行っている。介助が必要な利用者には介助している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレで排泄できるようにケアしている。尿意・便意の訴えの少ない利用者に対しては、定時や訴え時にトイレ誘導のケアを行っている。オムツ使用は最小限にとどめている。	今の状態ができるだけ維持できるよう、チェック表を活用し、トイレでの排泄を支援しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを行うと共に水分量の把握・起床時の牛乳の飲用・食事内での乳製品の摂取等で対応している。運動不足になりがちな冬期間はホーム内の運動を多く取り入れて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間入浴は行っていないが、利用者がゆっくり入浴できるようにケアしている。入浴嫌いな利用者には、その都度タイミングをみながら声がけをし入浴に努めている。	週2回を基本に支援していますが、夏場はシャワー浴の日を設けたり、受診やその時々状況に合わせて調整し、清潔が保てるようしています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は就寝時間の対応ではなく、利用者が眠れない時にはリビングでテレビを見たり会話する等対応している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時や定期薬の処方時にかかりつけ薬局の薬剤師より説明を受け、職員へも申し送り等で周知している。また、気になる事や心配な事については相談に応じてもらっている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴に合わせ個々が出来る事・出来そうな事を見つけて役割をもっていたり、生活意欲につながるケアに努めている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園庭や園周辺を散歩して、地域住民とコミュニケーションがとれるようにしている。利用者が法事・お盆等の外出を希望する時には家族へ電話し協力してもらっている。また個別外出やレク等で支援している。	花見ドライブやフキを採りに出かけたり、家族の協力を得たりと工夫しながら外出支援に取り組んでいます。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の承諾を得て、買い物時にはお金の入った財布を持って買い物を楽しんでいる。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には季節を取り入れた花や装飾品・写真を飾っている。また利用者の創作作品も飾り、楽しめるよう工夫している。	利用者がつくった作品やたくさんの写真で壁面を飾り、利用者には花を活けていただいて共用空間に彩りを添えています。ソファ、テーブルの位置を時々変えて居心地良く過ごせるよう工夫しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが多く設置され、玄関前には日光浴が出来る工夫をしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が家庭で使用したものを自由に持ち込まれている。思い出の品や写真・個人の創作作品等も飾られている。	遺影、位牌等の大事な物を側に置いている方や自分で作った物、写真を飾っている方もいて、清潔感のある居室で安心して生活できるよう支援しています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設はバリアフリーの認定を受けている。		